

第3章 エリアデザイン像 ～50年未来像～

3-1 エリアデザイン像の概要

旧軽井沢地区、新軽井沢地区、中軽井沢地区、追分地区、南地区の5地区それぞれのエリアデザイン像を作成した。当節では、地区毎に計画条件および課題、整備イメージ、検討経緯を記述する。まず、下記に各地区のエリアデザインに共通するデザイン指針、検討の進め方を示す。

1) エリアデザインの指針

- ・平成25年度の未来構想会議にて、中村委員長、また各委員よりエリアデザイン、またグランドデザインに関するアイデアを頂き、デザインの指針を取りまとめた。当内容の詳細を5章に、また各会議の議事録を7章に、中村委員長の総括を8章にまとめた。なお、平成26年度に取りまとめたエリアデザインの指針を元に、各地区の検討をスタートしたが、平成27年度の検討を通して、様々な議論の積み重ねからエリアデザイン像は発展的に成長した。
- ・エリアデザインの検討にあたり、まずフォーカスしてデザインする場所、つまり地区毎の未来像を描くにあたり波及効果の大きいと思われる地点をピックアップした。中村委員長は、これを「入り会いグリーン(コモンズ)」と呼称している。下記では、8章の中村委員長の総括の中から、「入り会いグリーン」に関する言説の一部を抜粋する。

全エリアデザインの「入り会いグリーン(コモンズ)」は、共同体の行事、作業、など集団利用を想定するとともに、町民の連帯、世代間の絆を強く意識して運用される緑地である。密集市街地にあっては、同様な思想のもとに小型の都市型まちニワを構想したい。それらは、今までの都市公園と違って次のような特徴をもつ。

- ・ 共同体の絆

幼稚園、保育所など子育て支援施設、高齢者施設などの社会福祉系施設、感性農園、農業系施設などをレストラン、市場などを中心に配置する。また、異分野を積極的に受入れ緑地広場に融合する。その中で、労働、祝祭行事、風景への共感によって地域社会の絆をつよめ、家族の支援や世代間持続性へのつよい支援を意識してつくられるものである。

- ・ メンバー性の公共

ワタクシ私と峻別され、対立する公共ではなく、所有感覚を持つ私の延長で構想される公共を育む。

上記の思想を念頭に、各地区のエリアデザインの検討を進めた。

2)検討の進め方

- ・検討にあたり、地区毎に現地調査を行い、また歴史的背景、地形的特徴などを地図や文献などを基に整理した。当内容については5章にて記述する。
- ・平成25年度の未来構想会議にて、デザイン指針を取りまとめ、主に平成26年度に具体的なエリアデザインの内容検討を進めた。デザイン指針を元に、計画案を平面図に落とし込み、協議を重ねた後、構想模型を作成した。この模型を元に、より高度な議論を促し、デザイン案のブラッシュアップを行った。
- ・各エリアデザインの整備内容を象徴するシーンの模型写真を作成し、グランドエリアデザインを取りまとめる際に使用するパースのアングルについて検討を行った。
- ・また、全体模型写真を3D地形図等と合成し、各地区のエリアデザインの全体像を示す画像を作成、これをグランドデザイン冊子やパネルに使用した。
- ・各エリアデザインの模型は、水彩画家イマイカツミ氏がグランドデザインの鳥瞰図を作成する際にも、使用された。